

尾張西部ごみ焼却処理等広域化計画(素案)
一宮市 市民意見提出制度に寄せられた意見と市の考え方

募集期間：2025年1月10日～2月10日
提出件数：2件（提出者2人）

No	意見	市の考え方
1	<p>最終処分場は138タワー近くなので廃棄する地盤を、掘削残土処理すると思うので、土盛して標高30m位の山を整備(四日市の楠緑地の、山のような盛山)して山頂屋根付き展望所を、山頂へ向かう登山道は健康増進効果も見込み整備してほしい。眺望もよく観光資源になると思う。ゴミを捨てるために搬出せざるを得なかった市民に教訓にもなる。一富士で名前も縁起がよい。</p> <p>焼却炉が大規模になるなら排熱をさらなる活用し、西尾市みたいな温浴施設を作って欲しい。その他木曾川の水を活用して養殖も行う。</p> <p>渋滞の可能性が既に予想されているのなら、県道(国道も含め)を拡幅整備をするべき。県の指示に従い尾張西部のごみ処理広域化計画が策定されているので、一宮が主体となって県に働きかけ補助金を給付させて、一宮と稲沢から拠出して道路整備、道路拡幅、右折レーンを整備すべき。具体的には稲沢から一宮市に続く幹線道路、国道155号串作信号以北148号線を193号線まで片側二車線(計4車線)の道路を整備。東海北陸自動車下の県道148号線も片側二車線整備。エコハウスの前は県道193号だが、エコハウスは一宮市が占有しているので市が1車線道路用地に差し出せばエコハウスへの導入車線が整備出来る。民間開発の場合に行政が一般的に民間に指導する事なので可能だと思う。これで渋滞は発生しないのではないかとされる。</p>	<p>最終処分場は広域処理施設の検討対象に含めないこととしておりますが、ご意見として承ります。</p> <p>施設整備に伴う余熱利用については、現況のエコハウス138の活用方法を含め、検討してまいります。</p> <p>交通渋滞対策は、稲沢市からの搬入車両数を極力減らし渋滞を抑制するような計画を総合的に検討してまいります。</p>
2	<p>焼却炉火力による発電により、その電気を売電せずに市主導での開発で安価に電気を使用できる工場誘致を考えたらいかがでしょうか？雇用創出や地産地消にも役立つと思います。</p> <p>また、市民病院などの医療機関から出る医療廃棄物についても焼却処理が何十億とかかっていると聞きます。医療廃棄物の処理ができる施設にすれば、市外に流れる処理費も市に還元できるのではないのでしょうか？</p> <p>これからは公共施設が率先してZEBやZEHを採用して、一般住宅への普及を促す手本となるべきだと思います。</p>	<p>可燃ごみ処理施設で得られる蒸気などの熱源は、タービン発電による売電の他に民間事業者などへ蒸気や温水を熱供給するような最適な活用方法を検討してまいります。</p> <p>医療廃棄物の焼却処理、ZEB・ZEHの脱炭素への取組みを含め、ご意見は、検討する上での参考とさせていただきます。</p>